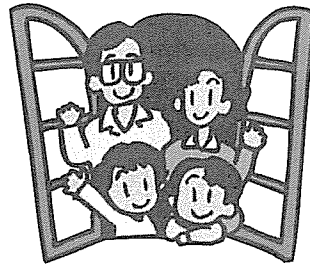


基本方針

- 家族のみんなが気持ちよく暮らせる、
ごみのない清潔な家庭を！



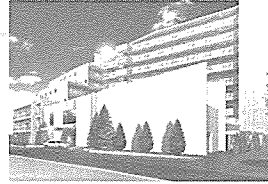
基本方針を達成するための要素

- 掃除が家のすべてのスペースで適切な
頻度・方法で行われている
 - 掃除の担当が明確である。
 - 掃除の頻度が適切である。
 - 適切な方法で掃除がされている。
- 落ちているゴミに気が付いたら、必ず
拾う。



役割分担

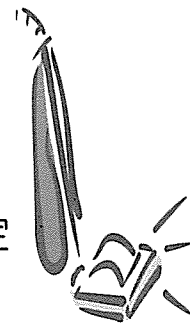
- 個室の掃除
- 共有部分：役割分担
 - トイレ・風呂 長男
 - 居間・ベランダ 長女
 - 玄関・客間 父
 - 台所 母



ただし、共有部分の当番は毎月ローテーション

手順 → 文書化

- 頻度
 - リスクアセスメントによって決定
- 実施方法
 - 掃除機の利用
 - 掃除機がかけにくいところは帚で
 - 卓上等の化学雑巾の使用
 - ごみ箱の配置
- 記録
 - 掃除記録
 - ゴミが落ちていた記録



リスクアセスメントで 掃除頻度を決定

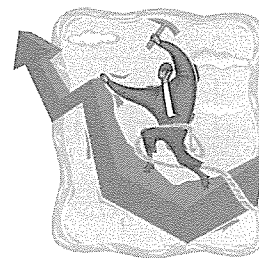
使用頻度 使用方法	毎日4時間以上	毎日1時間～4時間	毎日1時間未満
お客さんを通す 可能性あり	High	High	Medium
通常、家族全員 で使用	High	Medium	Low
個人で使用	Medium	Low	Low

掃除頻度

- High : 週4回
- Medium : 週2回
- Low : 週1回

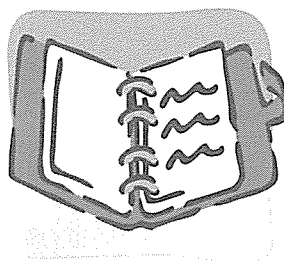
目標

- 清掃状況
 - 非実施率10%未満
- 達成状況
 - 1 cm以上のごみ 5個未満
 - ほこりの堆積なし



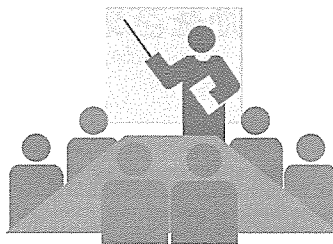
計画

- 年間計画
 - 目標設定
 - 計画立案
 - 教育実施
 - 評価
 - 監査
- 週間計画
 - 掃除の実施日



導入教育

- 導入教育
 - 家長方針の説明
 - 各役割の説明
 - 掃除機の使い方・掃除の仕方等手順について
 - 評価について



評価

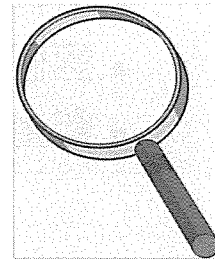
■ 評価方法

- 清掃状況 実施記録に基づいて
- 掃除状態の抜打ちチェック(月1回父実施)

- 結果をおこずかいに反映



目標の再設定
システムの見直し



監査

■ 実施者

- 実家のおじいさん



■ 内容

- 清掃手順の整備等、システムの状態を監査
- 評価を含めたシステムの有効性の監査



システムの見直し

外部・内部環境の変化への対応 変更の管理

- ある日、この地域でのごみの分別回収が始まりました。

なぜ今、マネジメントシステム
による労働安全衛生か？

Responsible Care（責任ある管理）の 芽生え

法規主導の予防活動の行き詰まり



ローベンス・レポート



Responsible Careの広がり

- 自律的管理による立証性の高い安全衛生管理が求められる

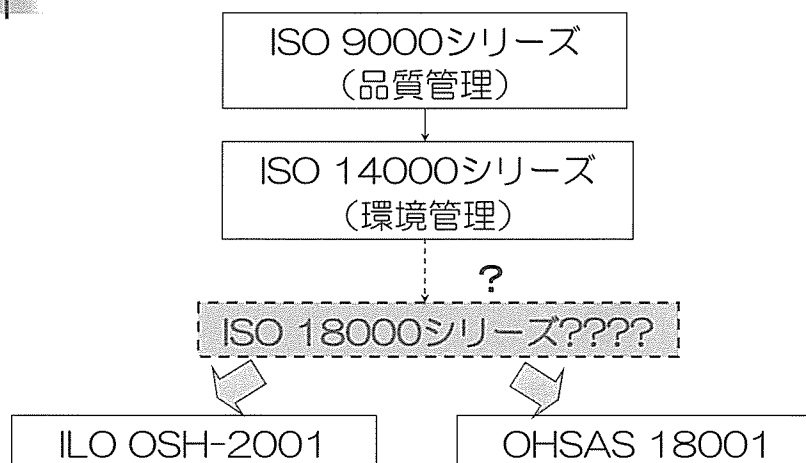
第10次労働災害防止計画

- リスクを低減させる安全衛生管理手法の展開等
 - 企業内に組織と個人が安全を最優先する「安全文化」を根付かせ、自律的に労働安全衛生対策が企業内で推進させる仕組みの確立を図ることが必要である。

労働安全衛生法令改正

- OSHMS指針の公表
 - 安全衛生に関する方針の表明
 - 危険性又は有害性等の調査及びその結果に基づき講ずる措置
 - 安全衛生に関する目標の設定
 - 安全衛生に関する計画の作成、実施、評価及び改善に関すること
 - 実施の認定（所轄労働基準監督署長）
 - 建設物、機械等の設置、移転、変更の届出の免除
- 関連する労働安全衛生法総括安全衛生管理者が統括管理する業務
 - 事業者の行うべき調査等（危険性又は有害性の調査）
 - 安全衛生委員会・衛生委員会の付議事項
 - 安全管理者の資格要件
 - その他

国際規格化の動き



有効な労働安全衛生マネジメントシステムに必要な二要因

優れた労働安全衛生活動のための マネジメントシステム導入に必要な要素

- どんな安全衛生活動を実行
したいか？ → ? ②
- どのマネジメントシステム
規格を利用するか？ → ? ①
- 優れた労働安全衛生マネジ
メントシステムを構築する → ? ③

OSHMSの規格の種類

- 認証を前提とした規格
 - Occupational Health and Safety Assessment Series 18001 (労働安全衛生)
- 認証を前提としない規格 (指針)
 - ILO Guidelines on Occupational Safety and Health Management Systems

マネジメントシステム規格の 要求事項とは？ (例)

- ILO OSHMS 変更に対する管理 (3.10.2)
 - 内部の変更及び外部の変化による影響が事前に評価され、適切な措置が講じられること。(3.10.2.1)
 - 作業場の危険有害因子の特定及びリスクの評価が作業方法、物質、工程、機械等の変更または新たな導入に先立って決定されること。(3.10.2.2)
 - 変更の決定については、すべての影響を受ける者に知らされ、これらのものに必要な教育訓練が実施されることが確保されること。(3.10.2.3)

危険源の存在

	分類項目	内 容
1	墜落	人が建物、足場、階段など2m以上から落ちる
2	転落	人が建物、足場、階段など2m未満から落ちる
3	転倒	人が平面上で転ぶ
4	激突	人が主体となって静止物または動いているものに当たる
5	飛来、落下	飛んできる物、落ちてくる物が主体となって人に当たる
6	崩壊、倒壊	足場、建築物等が崩れ落ちまたは倒壊して人に当たる
7	激突され	物が主体となって人に当たる
8	はさまれ、巻き込まれ	物にはさまれるまたは巻き込まれる
9	切れ、こすれ、刺さる	切れる、こすれる、刺さる（刃物、引っ張りなど）
10	踏み抜き	釘、金属片等を踏み抜いた場合
11	おぼれ	水中に転落しておぼれた場合
12	高温および低温物との接触	高温または低温の物との接触および火災、水蒸気等に曝露された場合を含む
13	感電、電気火傷、電撃	高電圧線等に接触した場合
14	爆発	圧力の急激な発生または開放の結果として、爆音を伴う膨張等が起きる場合
15	破裂	容器または装置が物理的な圧力によって破壊した場合
16	火災	可燃物等による火災の発生

健康上のハザード（健康障害要因）

職場環境に存在

- 化学的健康障害要因
 - 液体、ガス、ダスト、ヒューム、（酸欠）
- 物理的健康障害要因
 - 騒音、振動、温熱・寒冷、電離・非電離放射線、水圧・気圧
- 生物的健康障害要因
 - 細菌、ウイルス、昆虫、植物

作業方法に存在

- 人間工学的健康障害要因
 - 重量物、姿勢、繰返し作業

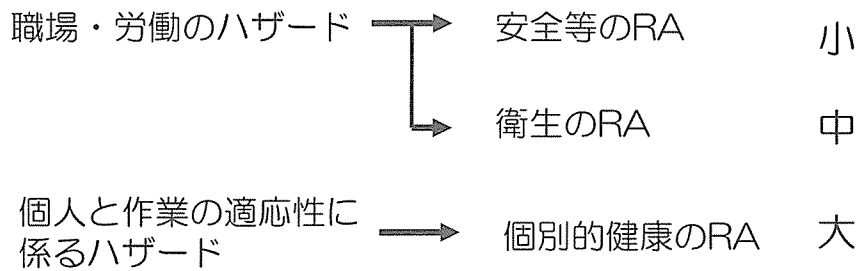
個人の健康と作業の不適合に存在

- 心理社会的健康障害要因
 - ストレス、勤務時間

安全衛生リスクアセスメント

ハザード同定 → リスクアセスメント

専門家の関与

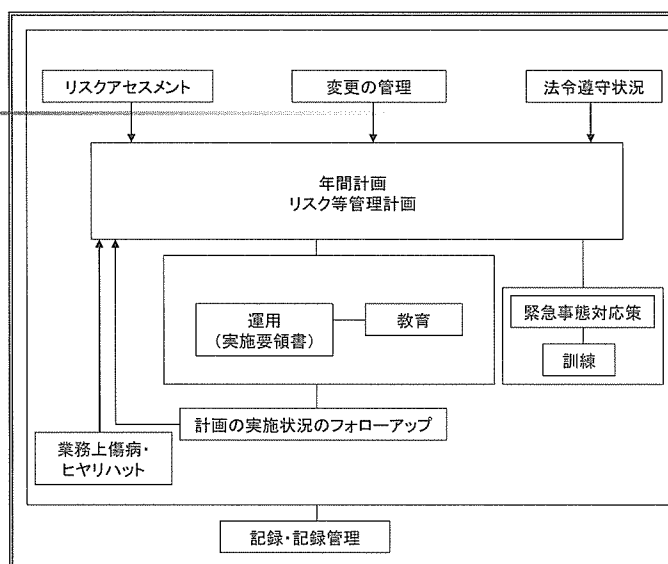


リスクアセスメントと対応計画

	職場・労働	個人または 労働と職場の適応性
計画的	各要因の リスクアセスメント ↓ リスク低減計画	定期健診 ↓ 事後措置 (適性配置)
臨時	変更時の リスクアセスメント ↓ 変更の可否判断 リスク対応計画	復職診断 ↓ 適性配置

体系的小さなPDCAシステムの完成

- 加えて
 - 法令遵守
 - 労災等への対応
 - 緊急事態への準備
 - 記録と記録管理



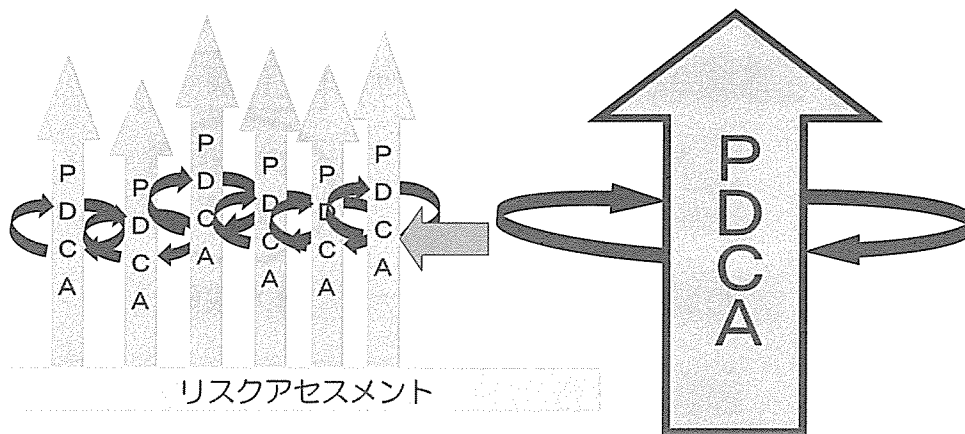
さらに次のステップは？

- 組織全体を上げて取り組もう
- リスク低減対策がうまく行くように、組織と手順を作成しよう
- 目標を設定し、効果を評価しよう

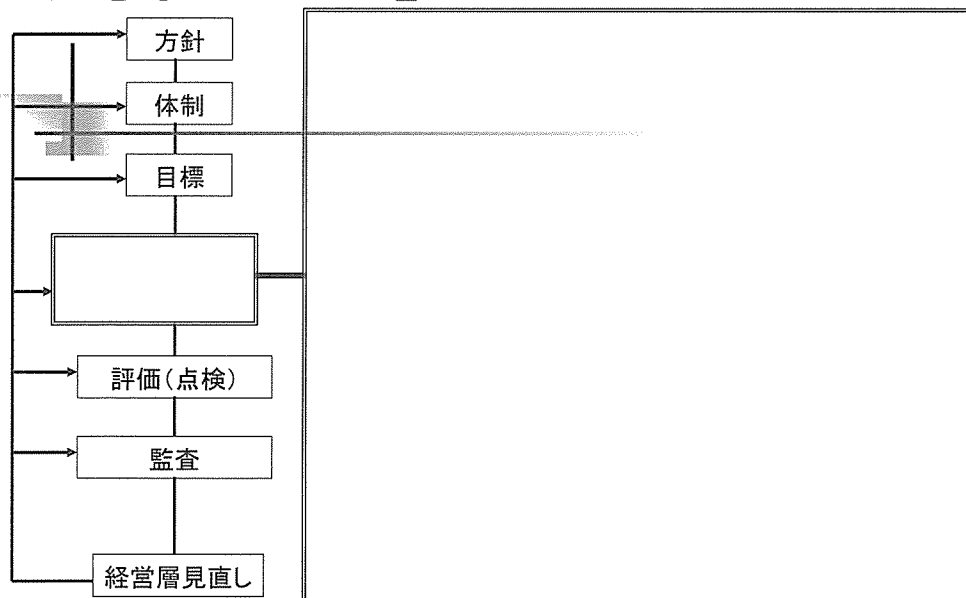
大きなPDCA

--- マネジメントシステムの完成

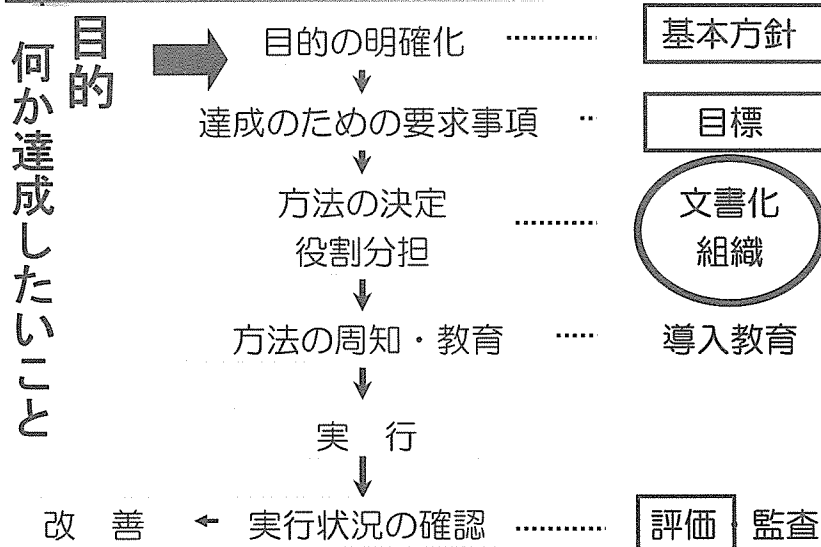
体系的な小さなPDCAの束が 動くための大きなPDCA



大きなPDCAの確立



もう一度思い出してみる



健康と安全のバランスが取れた方針例 -△△工場 健康と安全に関する基本方針-

- ○○社 △△工場は、会社と従業員全員の協力によって、健康と安全を推進する。
- 我々は、職場に存在する健康と安全に関するリスクを評価し、低減対策を実施する。
- 我々は、従業員の健康上の職務適性を適切に評価して、安全および健康上の悪影響を防止する。
- 我々は、会社の支援と従業員の自己責任において、健康の保持・増進に努める。
- 我々は、健康と安全に関する法令を遵守し、法令がない場合でも適正な基準を適用する。

達成目標と評価

- ✓職場に存在する安全・健康リスク
- ✓従業員の健康上の職務適正対応
- ✓健康の保持増進
- ✓法遵守

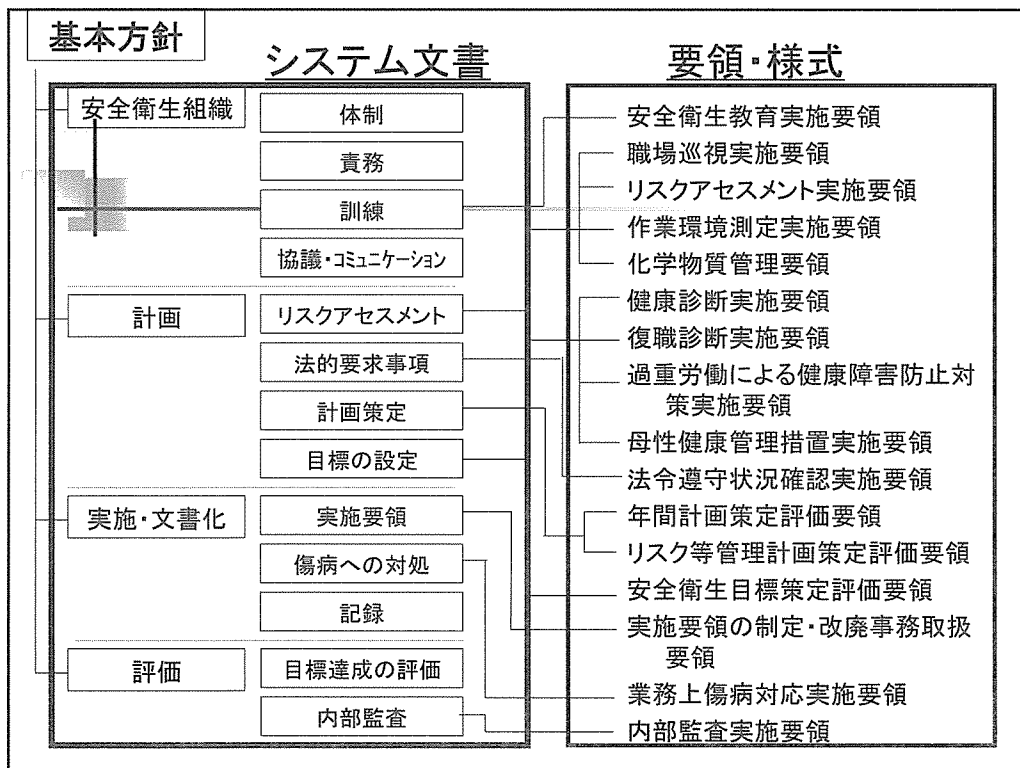
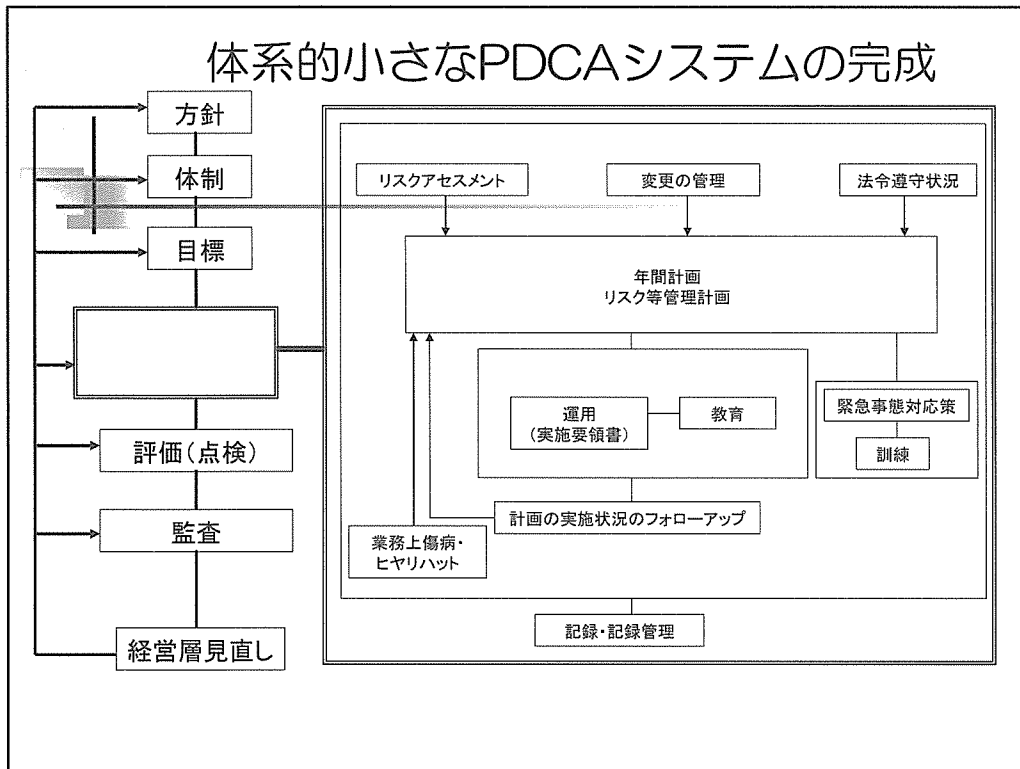
- ✓プロセス評価指標
- ✓パフォーマンス評価指標
- ✓アウトカム評価指標

産業保健活動 スコアカード

	目標	2001年	2002年	備考
職業病発生件数	0件	○	○	
リスク最大の数（マスク使用非考慮）	0人	○	○	
リスク大の数（マスク使用非考慮）	10人	●	○	騒音職場の改善あり
リスク大以上（マスク使用考慮）	0人	●	●	騒音職場マスク着用不徹底
特殊健診有所見者数	0人	○	○	
復職健診実施率	100%	○	○	
一般健康診断受診率	100%	○	●	未受診者 2名
法令遵守件数	0%	○	○	

マネジメントシステムの改善

- マネジメントシステムの要求事項とのギャップ
 - 目標未達成
 - 監査による改善事項の指摘
- 環境変化から生じるマネジメントシステムの改善
 - 業務環境の変化
 - 対象集団の変化



産業医としての目標

- PDCAによる活動を理解する。
- 担当する事業所のOSHMS導入のチャンスに関与する。



- 事業所にOSHMSの導入を働きかける。

明日の実習

- 大きなPDCAを理解する
 - 基本方針－要求事項－目標の関係
- 文書体系を理解する
 - システム文書と必要実施要領書
- 小さなPDCAを理解する
 - 産業医の職場巡視実施要領書の策定

6. 安全衛生活動レベル評価表

主任研究者 森 晃爾

安全衛生活動レベル評価表

主任研究者 森 晃爾（産業医科大学産業医実務研修センター教授）

ツール要旨

他の企業活動と同様、安全衛生活動についても、継続的な取組みへの意欲を維持するためには、取組みの成果が評価されなければならない。特に、労働安全衛生マネジメントシステムが、PDCA サイクルを廻して改善を継続的に行うことを基本とした仕組みであるため、本評価表は、安全衛生体制および活動の継続的な改善に焦点を当てたものとした。具体的には、日本産業衛生学会に設置された産業保健活動評価委員会が 2003 年に公表した「産業保健活動評価表（試行版）」を基本として、安全衛生全般の活動レベルの評価を可能とするとともに、小項目ごとの評価に基づいて大項目についても評価が行える内容に改訂したものである。今後、本評価表が OSHMS の導入前後の効果比較に利用されることが期待される。